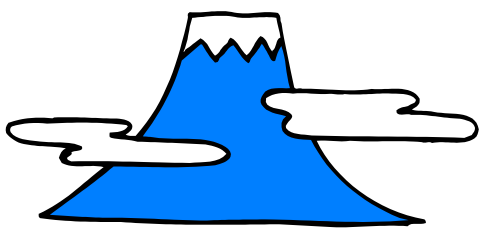
ほっぷ すてっぷ じゃんぷ

特訓進学塾 名教



2013年度版　第3号

2013年6月24日(月)

名古屋教育文化センター

塾長コラム

あんぽんち

～第三十六回～

6月も半ばを過ぎ、ずいぶん暑くなってきました。蒸し暑さのせいか、体調をくずし、お休みする子もいらっしゃいます。まもなく夏本番です。しっかりと体力をつけ、元気に乗り切ってほしいですね。

さて、来月には、参議院選挙が予定されています。安倍政権が進める経済政策「アベノミクス」などについての評価が争点になると言われています。テレビのニュースなどを見ていると、経済政策のニュースばかりが目立つような気もしますが、安倍政権は、経済再生とともに、教育再生にも力を入れています。首相は、就任後の会見で、「子供たちの命と未来は危機的な状況にある。いじめや学力低下で危機にひんしている教育の再生は政治の責任」と語っています。いじめ・体罰問題の対策、高校授業料無償化の見直し、学力低下問題への対策、教科書検定の見直し、6・3・3・4制の学制改革、滋賀県のいじめ問題を機に議論となった教育委員会制度の見直し、大学秋入学制度の促進、徳育の教科化、若者の就労支援の問題など、教育に関する課題にも多く取り組んでいます。このようなテーマだけを見ていると、難しく縁遠いテーマばかりと敬遠してしまいがちですが、教育、子育てに関するテーマだけに、私たちの身近なところにも直接の影響があることも多くあると思います。自分自身が分かるテーマだけでも、しっかりと考え、1票の投票先を決めようと思います。そして、そういう姿を子どもたちに見せておくことが大切なんだと、いつも選挙があるたびに思います。

さて、慶応大経済学部の赤林教授の研究に関する記事が先日の中日新聞で紹介されていました。学力向上につながるとして国が進めている少人数学級の効果を検証したところ、必ずしも学力向上につながっていないとのことです。確かに、先生の目が行き届く、授業を聞けない子にも対応できるなど、少人数学級には肯定的な意見が多くあります。現在、公立の小中学校では1クラス40人と定められています。しかしながら、当然、少人数学級の進められています。しかしながら、もっと減らしていこうと実現には、教員数を増やすことが必要で、これには膨大な予算がかかり、財政負担が大きくなるのです。

僭越ながら、少人数学級について、私の個人的見解です。予算を確保し、制度を整え、教員数を増員するだけの少人数学級の実現には疑問を持っています。私も、小学校の授業参観に出かけ、算数の授業で主に実施されている少人数指導を何度も見てきました。そこで感じたのは、指導力、授業力がある先生でなければ、少人数指導の効果はないということです。全ての先生をまとめて批判するつもりはありませんが、算数について不勉強だといわざるを得ない先生、ただ何となく教室内を巡回しているだけのご年配の先生を見かけたことがあります。膨大な予算投入をして実現しようとする少人数学級と同時に、授業の質の向上をもう一度、見直すべきだと考えます。慶応大の赤林教授も、「少人数学級への素朴な期待や印象だけで、財政負担の大きい政策の是非を判断していいものではない。」と疑問を投げかけています。

選挙を機に、身近な教育問題について考えていただけるといいなと思います。

塾長　西川　陽祐

今月の学問のすすめ

《もとの文》

学問に入らば大いに学問すべし。農たらば大農となれ、商たらば大商となれ

《今のことばでいうと》

どうせ勉強するなら、とことん勉強するべきだよ。農業をやるなら、おおきな農家になりましょう。ビジネスをするなら、ビッグな社長をめざそう。

アメリカでは学生たちの多くが、自分で会社をつくろうとするそうです。そのために一生懸命勉強します。

日本のように、おおきい会社に就職したいというのとは、ちょっと考えがちがうんだね。みんなも「自分の会社をつくろう」とおおきな夢をもって勉強してくれると、日本の未来も明るい気がします。でも、やたらおおきくなるのがいい、といっているわけじゃありませんよ。

ビッグになったとき、もうけたお金を自分でひとりじめするんじゃなくて、戦争や災害で家がなくなったり、親が死んでしまったりした人に寄付したり、世の中のために使うのが、本当の意味での「ビッグな人」なんだね。

お金がないとか、時間がないから勉強できないというのはいいわけなんだね。諭吉先生は、勉強はお米をきねでトントンつきながらでもできます、といっています。そしてとことん勉強して、ビッグな人をめざしましょう。

『こども「学問のすすめ」』（齋藤孝著、筑摩書房、2011年11月30日発行）

夢は大きく。

とことんやってやりましょう

＊　＊　＊

どうせやるなら、おおきくやれ、と諭吉先生はみんなをはげましています。人生は一度きりなんだから、ちいさくまとまるな。やれるだけやれ、ということです。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

子どものためのルールブック

ルール46

後悔のない生き方をしよう。何かしたいことがあるなら、やってみよう！　不安や疑念、さまざまな障害に負けて、あきらめてはいけない。欲しいものがあるなら、それを手に入れるために本気で闘おう。何かしたいことがあるなら、それに向かって前進しよう。けっして途中でくじけないことだ。もしなりたいものがあるなら、それを実現するために必要なことをすべてやってみよう。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～

（ロン・クラーク著　亀井よし子訳　草思社）より